

文

化

若い時に留学する良さは、たとえ少々お金に困ったとしても、一生付きあえるような友人に出会うかもしれないということではないだろうか。

実はそうした交遊関係が、一九〇〇年初頭のパリにおいて、数十名にも及ぶ日本人留学生の間で繰り広げられていたことが、近年わかってきた。その事実を今に伝える貴重な資料が、『パンテオン会雑誌』である。一九〇一―〇三年に一号から

三号まで、各号とも手書きで一冊ずつ造られた計三冊の回覧雑誌である。黒田清輝、土井晩翠ら現在、パリ日本文化会館図書館に蔵されるこの資料を百年ぶりに翻刻・公刊すべく、三年前から学際的共同研究チーム(代表・高階秀爾氏)が日本で発足し、ようやくこの秋『パリ一九〇〇年・日本人留学生たちの交遊』(ブリュッケ)として刊行の運びとなった。

私自身、日仏比較文化論の立場から、研究と編集全般に携わってきた。「パンテオン会」とは、一九〇〇年パリ万国博覧会に、多数集まった日本人留学生たちの間



浅井忠「漫画―巴里で気に入ったもの」(「パンテオン会雑誌」第2号、1901年、パリ日本文化会館図書館所蔵)

パリ留学100年前の交遊録

◆パンテオン会の回覧雑誌を翻刻◆

今橋 映子

教育学、建築学、国文学、西洋史学、医学)や陸海軍関係者、さらには土井晩翠などの詩人まで含まれ、六十名に及ぶ幅広いものであった。パンテオン会はその意味で一種紳士クラブ的な側面が強いと思われがちなのだが、彼らの雑誌にはむしろ仲間うちから

かいたユーモアの精神がたっぷり盛り込まれていて、その自由闊達さや心なごむものがある。例えばあの黒田清輝の偽名は「ドッコイ」(起き上がりこぼしに似ている体形)、土井晩翠は「タワシ」(お米をタワシでといていた!)、和田英作は「村長」(パリ日本人村の世話役)。今や遺族も知らない「新事実」であろう。彼らの多くが下宿していたオテル・スフロアが

存。この下宿の経営者シツテル夫妻の息子アンドレ氏によって大切に保存され、十七年ほど前にようやく日本側関係者(本野盛幸元駐仏大使)に託されたのであった。

絵画・俳諧:多種多様 この雑誌には、浅井忠をはじめとする繊細な水彩画(図版参照)のみならず、絵画と密に連動した俳諧、パリでの艶聞を巧みに織り込んだ漢詩、戯曲、歌謡、尻取遊び、近代的な旅情を刻んだエッセイ、演説風文章といった、近世から近代に橋渡しするあらゆるジャンルの文学作品が含まれる。果ては日本人による英語演説原稿やフランス語抒情詩まで多種多様。一九〇〇年当時、仏・日ともに植民地帝国であったことをうかがわせる記事も極めて興味深い。まさに「雑」誌ならではの多様性なのである。

パンテオン会およびそれに関連する欧州俳句会の人脈は、彼らの帰国後様々な団体に引き継がれ、例えば三越の広報関係の仕事や、東京芸大、慶応大学の活動などにも影響を与えている。今回公刊にあたって、全てのテキストを翻刻し、影印、解題、論文、資料に加えて、閲覧用CD-ROMも付した。百年の眠りを経たからこそ、最新デジタル技術で蘇らせることができたのである。そして今やすっかり世間では分の悪い文化系の研究と出版を全面的に支えて下さった企業メセナ(笹川日仏財団、サントリー文化財団)が存在するということが、何よりも心強かった。

「人の縁」を原動力にして雑誌の性格上、美術史、国文学、比較文学、比較文化というような、職場を異にする多分野の研究者と院生が十数名も集まって文字通り奮闘してきた。「人の縁」こそが、この復刻を可能にした原動力である。果てしもない編集作業の合間に、それでも新たな事実がわかって知らせ合い、喜びを共有する瞬間こそが、実は共同研究だど、私たちは最後に悟ったのである。百年前の回覧雑誌が、多分野の方の目に触れることを、今は楽しみにしている。(いまはし・えいこ||東京大学大学院助教)

で結成された親睦団体である。提案者は近代洋画家として知られる黒田清輝と法学者の寺島誠一郎である。パンテオン会会員の何よりの特徴は、洋画、日本画を問わず、近代日本の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、

の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、

の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、

の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、

の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、

の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、

の代表的画家が多数含まれる(和田英作、浅井忠、岡田三郎助、中村不折、竹内栖鳳、久保田米斎)ということ。しかしメンバーは画家に限られず、当時のエリート留学生(その学問範囲は法学、